

## ダウ工業株 30 種

2010.9.2

### < 日足から想定される今後1週間程度の相場 >

日足は高値圏(桃色の帯)の上端を大きく突破する大陽線となっています。当面は高値目処を探る展開が想定されますが、これまでの相場基調に変化がないのであれば、直ぐに反落に転じることが予想されます。もしそうならないようなら、日足は新しい上昇局面に入る可能性が出てきます。

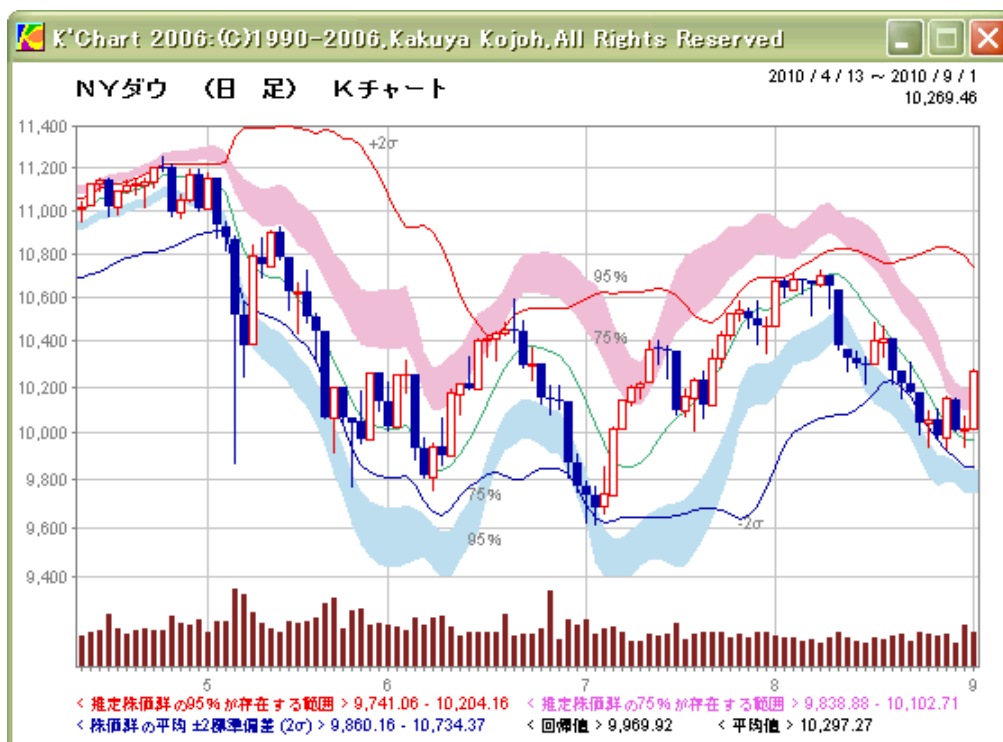
### < 週足から想定される今後1カ月程度の相場 >

週足は回帰値(緑色の実線)を跨いで極短い下影陽線となっています。回帰値を跨いだ後は転換しやすいタイミングとなりますから、今後、続落となって下値圏(水色の帯)へ向かう可能性も、反騰に転じて高値圏へ向かう可能性も、五分五分と考えた方が良いでしょう。先行する日足が、反落となるようなら前者の可能性が、続騰となるようなら、後者となる可能性が高くなると考えて良いでしょう。

### < 月足から想定される今後3カ月程度の相場 >

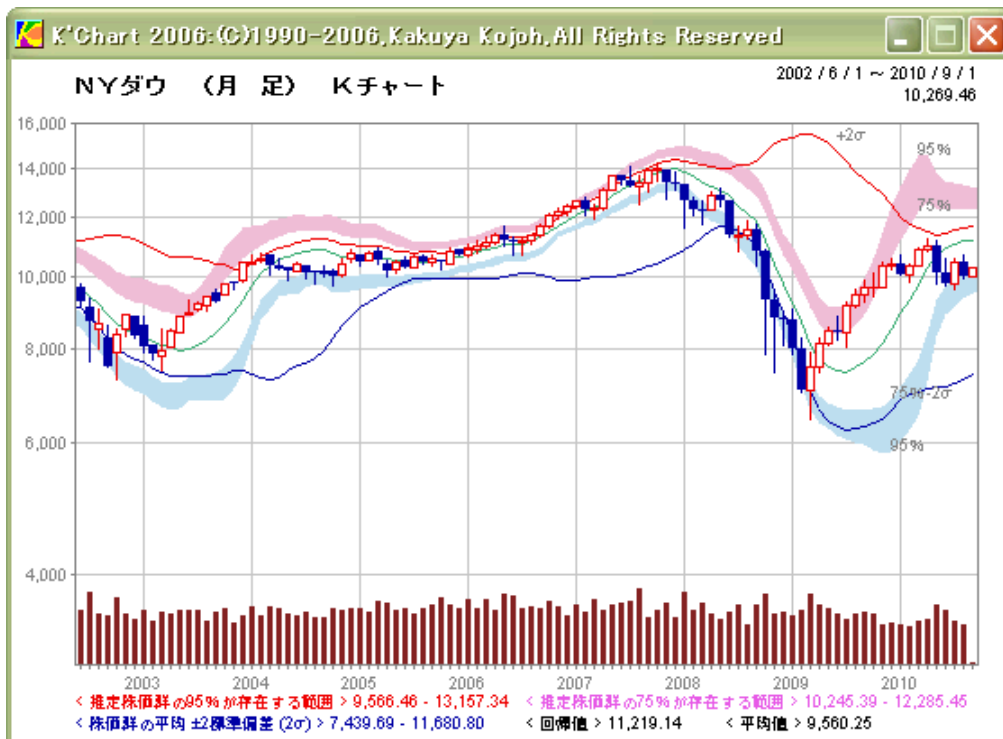
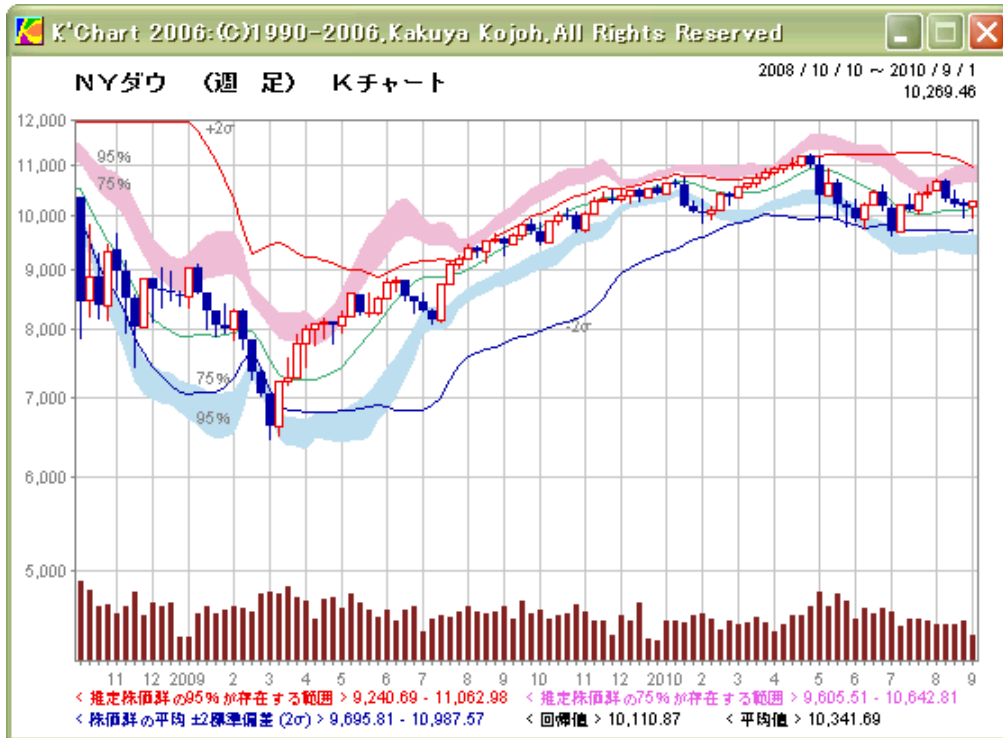
月足は下値圏の上端近傍で始まりました。今月末に下値圏から浮上する明確な陽線となって終わるようなら、今後、回帰値へ向かって上昇する展開が想定されますが、下値圏へ押し戻される陰線となって終わるようなら、下値模索の展開が続くことを想定することになります。

米国では、景気低迷が続くようなら一段と金融を緩和するという観測が流れていますが、失業率が高止まりする中では個人消費が低迷するのは避けられません。需要が盛り上がらない中では、企業は新規投資に慎重にならざるを得ず、過去の日本が経験したように、貸出を緩和しても借り手がなく、金融機関に資金が滞留してしまうという可能性があります。そのような環境下では株式市場は上昇しにくいのではないのでしょうか。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものでなく、その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではありません。その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。